

# \* 関 勝 則 「時代を映した横浜の歌」 探訪。

## 《 1 》 作詞家の想いの強さを感じる「本牧メルヘン」

昭和を代表する作詞家、阿久悠の数多い未発表曲群の中から厳選した歌詞に、シンガーソングライターの山崎ハコが作曲して歌った「横浜から 阿久悠未発表作品集」が、今年6月発売されました。

作詞活動40年間で5,000曲以上もの歌を世に残した阿久悠ですが、横浜を舞台にした詞は意外と少なかったと思われます。そんな中で、阿久悠の著書「なぜか売れなかったが愛しい歌」にも取り上げ、「大ヒットまではいかなかったが、知る人ぞ知る名曲」と取り上げ、ご本人の好きな自作詞のベスト10に入ると言っていた曲が1972(昭和47)年に発売された鹿内孝の「本牧メルヘン」です。

ロカビリー歌手として人気があった鹿内タカシが「鹿内孝」と改名、歌謡曲として初めての曲が「本牧メルヘン」。作曲はジャッキー吉川とブルー・コメツの井上忠夫で、ロカビリー歌手鹿内タカシの付き人でした。「本牧で死んだ娘は 鷗になったよ ペットのブルースに送られて〜」「ジョニーもスミスも泣くのを忘れて 海鳴りに向かって歌っていたよ〜」



レコードジャケット

阿久悠は、この曲について、「当時、歌から感じられる景色が無国籍になるように心掛けていた」「この曲を書いた次の年に「ジョニーへの伝言」を書くが、この時すでにジョニーはスミスとともに登場しているのである」と記述しています。1970年代前半は、日本で万国博覧会が開催され、ビートルズ解散、オイルショックなどが起こった時代。学生運動、深夜放送のスタートなどとともに、社会の動きも生活様式も大きな変革期を迎え、マクドナルドの日本1号店を始め、カップヌードル、ボウリング、仮面ライダー、上野動物園のパンダなどもこの時代に出現しました。

当時はベトナム戦争が泥沼化する中で、本牧は若い米兵が集う街として活気があふれ、前回記したザ・ゴールデン・カップスをはじめ、最先端の音楽を発信する街としても注目を浴びていました。当時の若者は「シラケ世代」という言葉に象徴されるように、熱中できるものを失い、虚無感のようなものを抱きながら、さまよっている人が多かったと言われています。そんな中で、なんとなく自由な空気が漂う新宿の西口広場や原宿に若者が集まるようになったのと同じように、阿久氏が詞の中に登場させた若者の舞台として、無国籍な匂いや非現実的な空気が感じられる本牧という街を選んだのではないかと想像できます。



### 29年度決算特別委員会(2)

道路局関係審査(10月22日)より

私が行った決算審査についてご報告します。今号では近年の激甚化する自然災害への備えとして道路局が進めている災害対策事業について29年度の成果等をお伝えします。

質問 横浜環状南線の進捗状況は。

答弁 用地については30年9月時点で99%の取得が完了。工事は栄区内のトンネルの掘削に加え、戸塚区のインターチェンジ周辺で迂回路の整備など準備を進めています。

質問 南線整備により防災面から期待できる効果は。

答弁 南線により圏央道と横浜南部市域が直接結ばれ、東名高速や中央道、整備中の新東名などへのアクセスが格段に強化されます。これにより、大規模災害時の緊急車両の通行や物資の輸送などに大きく寄与すると考えます。

【横浜環状南線】横浜横須賀道路の釜利谷ジャンクションと国道1号線を結ぶ延長約9kmの自動車専用道路。建設中の横浜湘南道路から新湘南バイパスを経由し、東名高速の海老名ジャンクションに接続。さがみ縦貫道と合わせ圏央道の一部を構成している。

質問 緊急輸送路の無電柱化は都市の防災力を高める大変重要な取組であるが、どのような路線から進めていくのか。

答弁 緊急輸送路のネットワークを形成する環状2号線、山下本牧磯子線、鶴見溝の口線について重点的に進めています。

質問 橋梁・歩道橋の地震対策について29年度の実績と今後の取組を伺いたい。

答弁 重要橋梁の架け替えを1橋、一般橋梁の8橋で耐震工事を進め、うち6橋の工事が完了。歩道橋では、第一次緊急輸送路の環状2号線に架かる歩道橋や磯子区の西町歩道橋を含む6橋の工事が完了しています。今後は対策が残る一般橋梁164橋、歩道橋49橋について、補修工事と併せて耐震を進めコスト縮減と効率的な推進に努めます。

質問 道路がけ防災対策の29年度実績と今後の取組を伺いたい。

答弁 本市が防災対策工事を行う必要がある28箇所のうち、29年度は磯子区杉田二丁目(浜中下)の道路がけなど8箇所です。残る箇所でも土地境界の確認や地権者との調整を進め着実に取組みます。

質問 減災対策に向けた29年度の河川改修の状況と今後の取組について伺う。

答弁 今井川や和泉川など7河川で656mの改修を進めました。また8箇所の橋梁整備を進め2橋梁が完成しています。今後は帷子川、岩間川の護岸整備を進め安全度の向上を図ってまいります。

質問 災害時の配備体制と29年度の配備状況について。

答弁 大雨洪水、暴風警報、大雪注意報の発表や震度4以上の地震が発生した場合は「横浜市防災計画」に基づき、道路局と土木事務所職員が参集し配備につきます。29年度は、台風など風水害で18回、大雪で2回、地震により1回の配備がありました。